



東北スポーツボランティア・サミット開催

IN 新潟

2009年2月7日(土)・8日(日) 新潟



第5回東北スポーツボランティアサミットが2月7日、8日に東北電力ビッグスワンスタジアムで仙台、山形、水戸、千葉、富山、福井、そして新潟からのスポーツボランティアや大学教授、学生、クラブスタッフの合計約50人が参加して開催された。

1日目は、なでしこJAPANテクニカルコーチで、JAPANサッカーカレッジ所属の能仲太司氏の講演、その後、仙台・山形・新潟で活動しているスポーツボランティアの活動報告会。そして、このイベントのメイン行事である交流会(懇親会)。

2日目は二日酔いも吹っ飛んでしまう熱いトークバトルが繰り広げられた分科会が行われました。2日間の模様を皆さんにご紹介しましょう。



能仲太司氏 講演

演題：チームを支える役割 ~北京オリンピックなでしこジャパンの経験を踏まえて~ 講演は、能仲さんの経歴紹介から始まった。

2002年4月~ JAPANサッカーカレッジ コーチ

2004年1月~10月 アルビレックス新潟シンガポールコーチ

2007年1月~ 女子日本代表テクニカルスタッフ

なでしこJAPANに加わるきっかけは、アルビレックス新潟Sで大橋監督と巡り合ったこと。

次に、能仲さんから参加しているボランティアに「ボランティアを始めたきっかけ」についての質問があった。

サッカーが好きなのでサッカーに携わりたい、裏方として関わりたい、あるいは地元チームが好きだから。という会場からの回答。そして、能仲さんの学生時代のボランティア体験についての話があった。

専門学生時代の仲間の多くは「やらされている」という感覚があったが、専門学校が学生をボランティア活動に派遣する理由は「スポーツイベントは多くの方たちのサポートがあって成り立っていることを学んでほしい」ということ。能仲さんには指導者になるという目標があったので、しっかり学校の意図を理解することができた。そして、卒業し、学生を連れてくる立場になり、今はサポートされる立場になった。その過程の中で変わらず感じているのは、チームのためによりよい環境を！お客様に安全な環境を提供すること。また、クオリティーを高める

ことが重要。運営面でのクオリティーを高めることで、お客さんの満足度が上がるばかりでなく、選手たちのパフォーマンスも良くなる。相乗効果により多方面の満足感が向上する。次にスポーツの魅力とは何かというテーマの中で、北京オリンピックの感動シーンをビデオ映像で流した後、能仲さんは次の点を述べていた。

スポーツの魅力とは

1つは、試合に臨むまでの家族の思い、周りの方たちの支えを通して舞台に立つということが魅力。また、

- ・非日常的なもの 4万人の声援などは日常では感じるできない。
- ・筋書きのないドラマ 先が読めないストーリー。4年間積み重ねてきたものを披露できずに舞台を去らなければならないこともある。
- ・勝負に掛けるドラマ 見えない力。努力の結果
- ・様々な楽しみ方 観る、競う、楽しむ、支える、応援する

また、スタジアムで観る楽しみについて語られた。

- ・メインスタンド2層目記者席でいつも見て、試合を分析しているが、今年の天皇杯決勝戦は取ってカテゴリー4（ゴール裏）で観戦した。1年に数回、分析なしで観ることがある。
- ・アルビレックス新潟の試合の際、ゴール裏を通ると躍動感が伝わってくる。いつもメインスタンド2層目から観ているが、それとは全く違った雰囲気を感じる。
- ・それがスタジアムに来るとということ。テレビでは感じるできない雰囲気がある。
- ・スタジアムの色々なところで見るのが楽しみでもある。他のスタジアムに行ってその地域の色（雰囲気）を感じることも大切。

サポーターへの感謝の言葉

選手がサポーターに試合後、「ありがとうございました」と語りかけている姿をよく見るが、なでしこJAPANのスタッフになって、色々な方たちのサポートを肌で感じるようになって、選手が話す「サポーターの皆さん、ありがとう～」という言葉の重みが分かった。また、選手たちの言葉が心の底から出ていることを実感した。

地域活動報告会

仙台

ベガルタ仙台ボランティアクラブ

- ・パワーポイントでプレゼン。これが音響入りでとても素敵だった。
- ・説明の内容は、ボランティアクラブの活動趣旨、活動内容について。
- ・2005年に自主運営準備委員会が発足

「ボランティア活動の運営をより良くするために、運営会社からのトップダウンではなく、ボランティアが自主的に活動を行うことを検討する」が目的。そして2006年から本格的に始動。

- ・仙台と言えば何といってもエコ活動。ユアスタでのエコ活動に必要なアイテムがしっかり写真入りで紹介された。
- ・仙台で驚いたのは、登録者の男女構成比、何と約270人の登録者のうち、64%が女性であった。

市民スポーツボランティア SV2004（宮城）

- ・スポーツボランティア2004が誕生したきっかけから話が始まりSV2004が開催している研修やセミナー等に関する活動についての説明があった。
- ・次にSV2004が関わっているスポーツボランティア活動の詳細について説明。
グランデ21（宮城スタジアム）、楽天イーグルス、仙台89ers。どのカテゴリーにも共通しているのがエコ。
- ・特にエコ活動による効果を減量数値はもとよりCO2削減量として示すなど工夫しておられた。
- ・楽天イーグルスのボランティアの紹介で、平均年齢が50歳という説明があった。スポーツの嗜好が年代により違うため、各スポーツボランティア毎の平均年齢が違うことが改めて分かった。

山形

- ・大学とモンテディオ山形さんとの連携状況について説明があった。
- ・若い世代をスポーツボランティアに巻き込むことで、興味喚起し、ペースを広げていくことの重要性を感じた。また、今年からJ1参戦の山形。どのような運営スタイルになるのが楽しみでもある。



新潟

まずは、アルビレックス新潟でのボランティア活動内容の紹介。

・次に、コミュニケーションの重要性について説明。

・ボランティア登録者数が少ない時代は、クラブスタッフとボランティア同士のコミュニケーションが取りやすい環境であったが、ボランティア登録者が増えることにより、クラブスタッフとボランティア全員との意思疎通は難しくなった。そこで、生まれたのがクラブボランティア制度。

・ボランティア同士で意見交換あるいはアンケートを取りまとめクラブに伝達する。あるいは、懇親会等のイベントを企画する。

これは、仙台がボランティア活動の運営主体をクラブからボランティアに移したことに似ている。

・また 2008 シーズンからクラブスタッフを紹介する「特ダネ！アルビ」をクラブが作成し、毎試合掲示した。

次に昨年 12 月に行われた 2008 年シーズンを振り返ってのアンケート調査結果の説明。

・ボランティア参加回数は 20 回以上が半数以上。

・参加しているきっかけで多いのはアルビが好きだから。

・継続できるのは、仲間同士と一緒に活動しているという一体感から。

ボランティア活動について

このコーナーでは新潟のボランティアさんが、ボランティアを始めたきっかけや継続できる理由、2008 シーズンのエピソードについて紹介した。

総合案内所のボランティアさん

・ボランティア説明会に参加しようとした時、思い切った勇気が必要だったが、声を掛けてくれた人がいた。

・説明会に参加した時、和やかな雰囲気ので安心した。

・これならできると感じた。

・そして、若い人たちと一緒に楽しく活動していることから、年々若くなっていく気がする。

次は、スタンド担当及び JAPAN サッカーカレッジの学生さんに試合運営の活動内容について語っていただいた。



交流会



会場を新潟市駅南の居酒屋に移して、参加者 36 人でアルビレックス新潟の運営課長さんの歓迎あいさつ、山形のボランティアさんの乾杯の音頭でスタート。ただの飲み会を思ふことなかれ。交流会班が仕込んでいたエンターテイメントは、“凄いい”の一言だった。

まずは、各地域代表者による地域アピールタイム。ほろ酔い気分になったころからクイズ大会。

景品の奇抜さに驚愕するとともに正解者に掛けられる首飾りは手作り感あふれ、とても感心。

時間のない中で、きめ細かくかつ楽しませてくれる仕掛けづくりがなされていることに心が熱くなった。

そして最後には、県外参加者限定のじゃんけんゲーム。新潟のジャンケン王に勝ったら素敵なプレゼント贈呈という触れ込みでスタート。

そしてジャンケンに勝った人が景品をもらってビックリ。なんと景品はアルビレックス新潟ボランティアのジャンパー。「これいらないよ」、「着れないよ」という声がある一方で、「ありがとうございます。着ます」という声。地域という枠はここにはなく、クラブを共に支えているという一体感が会場に満ちていた。

第2日目

アルビレックス新潟が 2008 シーズンに行った新規登録者を増やす取組をご紹介します。

・大学でのボランティア募集 効果はなかった。

・コミュニケーションの重要性を理解し、声かけ運動の実践

・なぜボランティアをやるのかという分析。 クラブが好きという人が多い

・サッカー、クラブに興味がない人たちにとってボランティアに参加することは敷居が高い。

・HP 及び場内での募集案内を引き続き充実させていく。

第6回
東北スポーツボ
ランティア・サミット
は宮城で開催予定

分科会

分科会は5班に分かれて実施。1班7人。

私に加わった第1班の話の内、いくつかをご紹介します。

JEF千葉さんのボランティア活動

- ・ボランティア配置は固定されていない ・交通費が出ている
- ・10試合ボランティアに参加すると1試合観戦することができる。
- ・2008シーズンは平均50人弱の参加者。足りない部分はアルバイト。
- ・クラブが好き だから何かしたいという気持ちで始めた人が多い

ボランティア登録者が増えない理由

- ・参加しても試合が見られなかった。イメージと違った。

【提案】

だから、試合前だけとか試合後だけとか、パートタイムボランティア制を採用したらどうだろう。

- ・作業が大変 ・始めるに当たっては不安な気持ちがいっぱい。

【提案】

- ・モチベーション(活動意欲)を高める仕掛けづくりが大切。 ・ボランティアICカードを作って、参加回数が視覚的に見れる取り組みをしてみる。
- ・ボランティア活動によりどれだけの経費が削減できたか定量的に示す。

ボランティア活動を続けるために必要なこと

- ・仲間同士のコミュニケーション ・他地域のボランティアとの交流 非日常的なイベントの体験によるやりがい創造

各班の発表の中から印象に残った提案のいくつかをご紹介します。

ボランティア登録者を増やすために

アクション(ボランティア参加への誘導)

- (1)体験型:夏休み親子ボラ (2)エコだけ (3)新人さん対応として、アテンド役を設ける。

ボランティア同士のコミュニケーション(意思疎通を図っていくことが何よりも大切)

もっと楽しい活動とする (1)選手たちのロッカールームの清掃 (2)選手サイン会のサポート

ボランティアに対する認識向上 (1)サポーターとはボランティアも含めての総称であることへの認識 (2)ボランティア検定の実施

クラブへの愛の醸成

- (1)クラブは自分たちの家族という意識の醸成 (2)あるいは、このままだと潰れてしまうという危機感を持ってもらう。

スタジアムコンセプトの共有 (1)どういうスタジアムにしたいのかクラブ、サポーター、ボランティアが共通認識を持つ



まとめると、コミュニケーションの重要性は各班が提案していた。そして、スポーツボランティアの認識向上、私は敢えて意識変革が必要だと感じる。

「チームを愛する人たちはサポーター呼ばれ、試合中選手と一緒に立ち続け、声援を通して選手の背中を押し続ける人たちをゴール裏(の住人)と呼び、クラブ運営をサポートする人たちをボランティアと言う。そして、このカテゴリーを総称してクラブサポーター」という認識を持ったなら、スポーツボランティアに対する意識が変わると思う。試合会場に足を運び、感動と興奮の時間を持つことができる。それは舞台づくりに勤しむ人たちがいるから。そしてクラブは舞台づくりに携わる人たちを求めていることを忘れてはならない。

昼食

新潟名物のイタリアン。せっかく新潟に来たのだから新潟名物を食べていただきたいというアイデアから実現したもの。それもケイタリング班(班とは言っても実質お1人で切り盛りされていた)の交渉により、普段は絶対に行わない出前も行っていただいた。スタジアム会議室で、みんなでイタリアンを食べる。後世に残る出来事だ。また、2日目に用意されたお菓子はおいしかったし、量も凄かった。手作りケーキは、市販されているものかと間違えような鮮やかさと美味しさだった。心のこもったおもてなしで皆さんに喜んでいただけたと思う。

終わりに

2日間行われた第5回東北スポーツボランティアサミットを無事終了することができた。県外から参加された方々の「来てよかった」という言葉が何よりのプレゼントになった。そして、このイベントを共に作り上げた企画・運営スタッフの中に絆が生まれたと思う。もちろん自信という大きな財産が残ったと思う。新潟のスポーツボランティア活動が大きく展開していくためにも、多くの方たちと夢を語り合い、実現に向けて一緒に進んでいく活動をこれからも行っていきたいと思う。

【 Alliance 2002 コラムより了解を得て転載 】

スポーツボランティアの活動【松本山雅FC】

全国にはサッカーやバスケットを中心にトップリーグをめざすチーム・クラブが数多くあります。そしてそこには共に夢の実現をサポートするボランティアがいます。その中でも「リーグへの登竜門となるJFLへの昇格をめざし北信越リーグで戦っている「松本山雅FC」は、同じ長野に拠点を置く「AC長野パルセイロ」との信州ダービー(SVニュース11月号Asami Report参照)の盛り上がりで知られています。

「アルプスの緑の風の中で」～松本山雅FCボランティア TEAM VAMOS

お話しをお聞きしたのは「出欠をとったり、車のない学生ボランティアの送迎をしたり、ごみの片付けをしたりして部活のマネージャーと同じ」と笑う、クラブとボランティアをつなぐ活動を続けているボランティアM g rの風間さんでした。

< チーム・バモスの生い立ち >

チームは山雅SCとして1965年に誕生し、2001年にアルウィンという県営の専用球技場が出来たことや2002年のワールドカップでパラグアイがキャンプしたことなどを通じて、松本にJリーグのチームをとという機運が生まれました。それがNPO法人「アルウィン・スポーツ・プロジェクト」(以下、アルウィンSP)で、その際母体として候補となったのが当時北信越リーグで2部に低迷していた山雅SCであり、ふたつが合体することで松本山雅FC(以下、FC)が生まれ、経営権をアルウィンSPがもつこととなったのです。その後、チームとしてプロをめざす以上観客を集めゲーム運営を行うこととなり、その運営サポートをするためにサポーターなどが集まって作られたのが「チーム・バモス」(以下、バモス)というボランティア的な組織でした。このため、バモスは松本山雅FCのゲーム運営を担当する外部のボランティア組織という位置づけであり、その運営費はアルウィンSPから支出されているのです。

< バモスの活動 >

バモスの活動の内容は北信越リーグでFCのホーム7試合の中で、放送・もぎり・チケットやグッズ販売・マッチデープログラムの配付・受付・清掃・場内警備などを担当しています。クラブの体制が整うと共に従来ボランティアが行っていた放送の台本作成やマッチデープログラムの作成などはクラブに移管している状況で、同様に従来は外の警備も担当していましたが2007年、同じ北信越リーグのAC長野パルセイロとの信州ダービーで6千人を超える観客が入り、路上駐車が増加したことから現在は正式な制服警備員が配置されています。バモスの組織は昨年の実績で登録したボランティアが約60人、1ゲーム平均では約35名の参加となっています。一番多い年代は30代で、下は高校生から上は68歳まで参加していますが女性がやや少ないのが実情です。交通費は支給、実は3年目までは弁当支給でしたが、活動内容によっては時間がなくて食べられないなどの問題が発生し無駄がでたこともあり、去年からは弁当の支給を止めて交通費の補助及び弁当代ということで1,000円をさし上げて、それで場内の売店で好きなものを購入して食べてくださいということにしたのです。(名称はボランティア手当て)また、ボランティア活動をして何かもらえればうれしいということで、7試合全部に皆勤で参加した人に皆勤賞と賞状をも全員にちょっとした記念品をさし上げています。今年の場合は実は記念品がもう決まっていまして緑色のだるまを用意していて、それに山雅と書いてあり必勝だるまなので今回は最初に全員のボランティアに渡そうと考えています。また、選手との交流会について以前は実施していましたが昨年出来なかったため、今年はぜひ再開したいと思っています。

< 自慢できるもの >

自慢できることは「よく働くこと」でしょうか。ゲームのある日はキックオフの4時間前に集合し、ゲーム後片付けて終礼が終わるのがほぼ2時間後なので約8時間の活動となっています。しかも、スタジアムにスポンサーのパナーなどを掲示する作業もボランティアが担当していて、前日の夕方に最低10名くらいが集まり準備しているゲームが多くなっています。スタジアム外でも集客イベントや、募金活動など昨年の総出勤回数は20回以上を数えます。チームやクラブとのボランティアとのコミュニケーションは昨年から飛躍的に向上しています。それはNPO法人であるため中心となっている理事メンバーのJクラブを目指す姿勢の違いはあるものの、ボランティアの窓口になる理事を設けてくれたり、特に昨年からは有料化しボランティアの業務が増えたことで、観客の満足度を高める必要性からボランティア活動にかかる予算を増やしてくれたり、研修会やゲームごとの終礼にも残っている理事メンバーが全員参加していることが大きく、問題がその場で迅速に解決することも多いことから、クラブスタッフとボランティアの距離が近いということもコミュニケーションが大変いいということにつながっていると思います。ちなみにFCではクラブ専従は事務局員3名とGM1名だけであり、理事をはじめそのほかの人は本職を別にもっています。

< 今後の目標 >

もちろんクラブのJリーグ昇格が最大の目標ですが、ボランティア活動としては、試合中お客様は選手をみっていますが、そのお客様をみているのは自分たちボランティアであり、ゲームが終わり帰る際に来てよかったという表情を出来る限り多く見られるように、気持ちよくお送りできるようにしたいと思っています。また、関わっていて一番楽しいのは毎年仲間が増えることです。そのためにコミュニケーションを良くし、活動の雰囲気をもっと良いものにし、結果として仲間が増えていく、それが何よりうれしいのです。「TEAM VAMOS」は現在でも地域リーグ一番のボランティア組織だと自惚れていますが、Jに行ってもそう言われるようになったら良いですね。

FROM 花巻

ステラミーゴいわて花巻ボランティア

フットサルの日本リーグとして誕生した「フリーグ」に初年度から参加している「ステラミーゴいわて花巻」、2月に閉幕した今期の成績はリーグ最下位ながら、地域とのつながりという面からは努力のあとがホームページからもみとれます。ボランティア活動にも取り組み、ゲームの運営のため募集が行われています。フットサルはサッカーと違いホームアリーナは体育館、その意味ではプロバスケットボールのボランティアにも共通するところがありそうです。

ステラミーゴいわて花巻 ボランティアページ <http://www.stellamigo.com/modules/etc9/index.php?id=2>

FROM 浦安

バルドラル浦安ボランティア

リーグ2位という成績でシーズンを終了したのが、「バルドラル浦安」、そのボランティア募集のページには「多岐にわたるクラブ活動に『トリプラント/乗組員』としてご協力いただくことでバルドラル浦安が目指す“ホームタウンとの融和”を肌で感じていただきたいと思います。」とあります。狙いがはっきりしているせいでしょうか、ボランティアのページも、活動内容・登録フォームなど作りがしっかりしています。

バルドラル浦安ボランティアページ <http://www.bardral-urayasu.com/volunteer/index.html>

FROM 町田

ペスカドーラ町田

単純なボランティアとは異なりますが町田市の大学生を中心としたクラブ公認の組織がagolaです。ホームゲームの運営や企画提案、広報活動など実行している内容はまさにボランティアですが、メンバーの募集は大学生に限定している点が特徴となっています。

ペスカドーラ町田 agola <http://www.pescadola-machida.com/agola/agora.html>

FROM 神戸

デウソン神戸ボランティア

フリーグの多くのボランティア募集に際し、待遇面の記載はみられませんが、神戸のページでは「交通費・弁当など」クラブのボランティア募集では必須となっている項目がしっかり記載されています。活動内容もホームゲームでの会場設営・撤去、チケット販売・もぎり、チラシ配布 ファンクラブ受付・グッズ販売、総合案内・警備などアリーナでの活動としては、バスケットボールに近い内容となっています。

デウソン神戸ボランティアページ <http://deucao.com/deucaoweb/1.1/533/>

FROM 東京

東京マラソンボランティア

いよいよ3月22日に迫った第3回目となる「東京マラソン」、年々参加するランナーも増加し今年は約3万5千人が東京の中心部を走る予定です。そして、その運営をささえる約1万3千人の全国各地から集まるボランティア、その活動紹介が詳しく掲載されているのが、スポーツを考えるWebマガジン『sfen(スフェン)』(運営: 笹川スポーツ財団)の東京マラソン2009特設サイトです。

『sfen』東京マラソン2009特設サイト <http://www.sfen.jp/tm/index.html>

特色としては、ボランティア・リーダーの紹介や、各ポジションごとの活動内容が時系列で説明されていて、その大変さ、規模の大きさなどを感じます。そして、これは上手だなあ、と感じたのがボランティアブログ、活発に開催されていた説明会の様子など、ある種のカウントダウンのようで、当日が近づいてくるという臨場感を感じることができます。よろしければご覧ください。

東京マラソン・ボランティアブログ http://blog.livedoor.jp/ssf_tokyomarathon/



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員
・活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

正会員 … 年会費3,000円 ・ 学生は1,500円 (年度は4月～翌年3月となります)

準会員 … 年会費500円 サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004>

多くのチームでボランティアを募集中です

サッカーJ2リーグボランティア < 各チーム及び施設のホームページより >

【コンサドーレ札幌】ボランティアページ <http://www.consadole-sapporo.jp/club/volunteer.html>

【ベガルタ仙台】ボランティアページ <http://www.vegalta.co.jp/support/volunteer-policy.html>

【水戸ホーリーホック】ボランティアページ <http://www.mito-hollyhock.net/clubprofile/volunteer/index.html>

【栃木SC】ボランティアページ <http://www.tochigisc.jp/news/article/00000072.html>

【ザスパ草津】運営サポートスタッフページ http://www.thespa.co.jp/2009_support/support.html

【東京ヴェルディ】ボランティアページ <http://www.verdy.co.jp/club/volunteer/>

【横浜FC】スチュワードページ <http://www.yokohamafc.com/clubinfo/steward.html>

【湘南ベルマーレ】ボランティアページ

<http://www.bellmare.co.jp/bellmare/view/s.php?a=820&PHPSESSID=ab7efa88831aa5de83d426b2da14e431>

【ヴァンフォーレ甲府】サポータースタッフ <http://www.ventforet.co.jp/volunteer/>

【カターレ富山】ボランティアページ <http://www.kataller.co.jp/volunteer/index.html>

【FC岐阜】グリーンズページ http://www.fc-gifu.com/news/2009/03/3_5.php

【セレッソ大阪】ボランティアページ http://www.cerezo.co.jp/stadium_volunteer.asp

【ファジアーノ岡山】ボランティアページ <http://www.fagiano-okayama.com/fan/index03.html>

【徳島ヴォルティス】サポートスタッフページ <http://www.vortis.jp/info/index.html>

【愛媛FC】ボランティアページ <http://www.ehimefc.com/p/index.html>

【アビスパ福岡】ボランティアページ <http://www.avispa.co.jp/>

【サガン鳥栖】アシストクラブ http://www.sagantosu.jp/assist_club/index.html

【ロアッソ熊本】ボランティアページ <http://roasso-k.com/volunteer.htm>

(注意) 内容は09年03月01日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略 >

金子 法泰 渡辺 英樹 風間 敏行

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)
を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として
SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

編集後記

通算13号目となるSVニュースの特集は、第1号と同じ「東北スポーツボランティア・サミット」になりました。違うのは開催された場所で、昨年が山形、今年は新潟でした。今、全国のスポーツイベントにはボランティアの姿がごく当たり前のように見受けられるようになりました。それはプロスポーツに限りません。そんなスポーツボランティアの悩みにはある種の共通性があると思います。その悩みについて自由に意見交換し、少しでも改善につなげること、そして、会って話すことで互いを理解し継続的な交流を行うこと。サミットにはそんな目的や実際の効果があるように思います。また、開催地持ち回りのサミットには様々な準備をして各地の仲間迎えるという意味で、スポーツの会場で観客を迎えるボランティアの凝縮された姿が見えるような気がします。さまざまなアイデアを出し合いもてなすことを楽しんだ新潟の皆さんに感謝したいものです。

ふたつめの特集は、これからトップリーグをめざすサッカークラブの支援を行っているボランティアの姿に注目しました。トップリーグのスポーツチームを運営する会社では、組織の体制が確立され関わる人もまた多くなるため、ともすると運営するスタッフとボランティアのコミュニケーションがなかなかうまくいかないケースがあるといえます。けれど、これからというチームでは、チームとサポーター、そしてボランティアが同じテーブルにつき、共通の目的の実現のために意見交換をする姿がありました。限られた資源をいかに工夫し最大限いかしていくか、忘れかけていたものを思い出させてくれる光景でした。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp